

## 地域に役立つ デザインって 何だろう?

問題を知り解決できること

### 食の砂漠化

みなさん、「フードデザート」ということばをご存知ですか? 昨今の消費不振やデフレなど様々な問題で、国内のスーパーや商店などの店舗数が急速に減少しています。その一方で、郊外型のショッピング

モールなどの進出により、市街地に住む社会的弱者層、特に高齢者が地元で食料品が買いにくくなり、健康が心配されています。それが、「フードデザート(食の砂漠化)」です。

弊社が所在する水戸市においても、同じような現象がおこっています。15年前に30店舗以上あった水戸市中心部のスーパーや商店は、現在は2/3まで減りました。こうした街の変化が高齢者の生活にどのような影響を与えるのか? 茨城キリスト教大学の岩間准教授が調査したところ、次のような結果がでました。

水戸市中心部には、多くの高齢者が住んでいます。そのほとんどの方が半径500メートル以内で満足に買い物ができるに困っています。また、健康への影響も懸念され、特に豆類や緑黄色野菜など生鮮野菜の摂取ができていないため、栄養状態が決して良いとはいえず要介護のリスクを高めています。これは、水戸市に限らず全国の地方都市やもちろん、過疎地においても大きな社会問題となっています。

### 茨城は食の王国

首都圏の台所と称される茨城県。農産物、漁業どちらも全国第3位の生産地として、

茨城県は日本の食卓を支えているといっても過言ではありません。先月7日に水戸プラザホテルで開催された今年で9回目となる「いばらき食の商談会」。会場では県内外の農業生産者や食品加工業者が個別に展示ブースを設け、約630社が参加、約1500人以上のお客さまが来場され大盛況。弊社も食品関連のパッケージや動画コンテンツをメインに出展し、茨城県の食に対する熱気を十分に感じまし

た。各ブースを見て感じたことは、東京で開催されている全国規模のフードショーと比べても負けず劣らずの商品の数と多様性があります。地元で生活していても、これだけの食品に接することはなかなかできません。

毎年発表される「地域ブランド別指数」。茨城県は都道府県別でいつもワースト3位以内。そんな茨城県ですが、首都圏に近く車さえあれば買い物も便利、食べ物も安く食べられ、住みやすい県だと思いませんか? 私たちは、地元茨城に対して、デザインで何ができるのか? というのも自問自答しています。

もっと茨城の良いところを知りたい、知ってほしい。地域の問題をデザインで解決できないのか、もっと他に茨城の豊かさ、地域の暮らしや独自性が絶対にあるはずですよ。少し大きめに言うと、「デザインで地域を良くしていきたい。」と考える私たちのチャレンジは、もう始まっています。



いばらき食の商談会において弊社ブースでは、映像コンテンツをアイキャッチに食品関連のパッケージデザイン展示しました。多くの方にお越し頂き、ありがとうございました。

店舗・販売店 医療・福祉 イベント・展示会 学校・塾 ブライダル

## 売り場に効く・人が集まる次世代広告メディア デジタルサイネージ

デザイン会社だからできる効果がある広告と  
魅力ある表現を低価格でご提供します!

デモ・打ち合わせ・お見積無料!

TEL029-221-4813

宣伝・PRにもっと差がつく4つのポイント!

- Point1 映像と音声で訴求力UP!
- Point2 掲載内容の追加・修正が簡単!
- Point3 日付・時間ごとに内容切り替え!
- Point4 レイアウトが縦横自由自在!

レイアウト  
縦横自在!!

